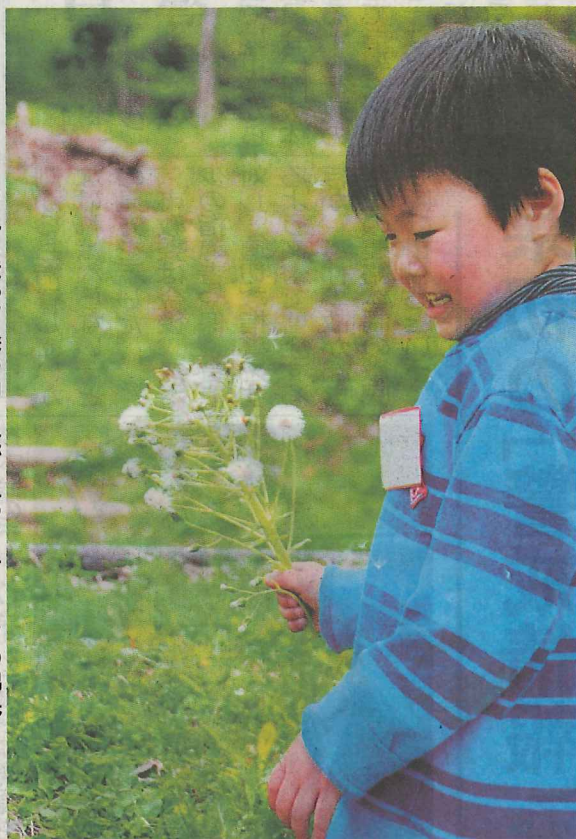


エッセー 自然が育む力

5月の「みかたの森のようちえん」では小雨が降る中、みんなで雨具を着て森に探検へ出掛けました。風に乗って霧が流れ込み、切り一面真っ白。とても幻想的な森を楽しみ、「雲の中の仙人」気分を味わうことができました。

私は養父市(旧関宮町)で生まれ育ちました。幸運なことに幼少のころは祖父に連れられて毎日、集落のあちこちこちらにある田畑に出掛けました。祖父が畑作業をしている最中に、兄弟や友達と遊

おじいちゃん おばあちゃんも 一緒に野遊びを



5月の風に乗って森の中に飛び立つフキノトウの綿毛

んだこと、祖父と2人で会がグッと減ってきています。もちろん少子化に雨宿りしたことなどを今でも思い出します。私がこの仕事に就いた原点「自然って面白い」というのは、このころの体験が深く関わっていると思

近年、子どもたちが外遊びをする様子を見る機会が少なくなりました。父が孫と過ごす時間が、逆に森のようちえんの

以前、エッセーを読ま身が野山で遊んだ経験が少なく、遊び方が分からない」「動植物に対する知識がないので、子どもを連れて遊ぶのが不安」

「忙しくて、つい親の時間です。」というお話を伺います。

それならぜひ、祖父母や地域の方の力を借りて、外遊びをやってみませんか。自然が育む力は、何も子どもだけが得られるものでなく、私たち大人も得ることができますよ。

5月、6月のエッセー「自然が育む力」は田中菅人所長に代わって、藤井が執筆させていただきます。

(尼崎市立美方高原自然の家指導部マネジャー 藤井かすみ)